

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
東京動物専門学校	平成2年3月31日	北村 健一	〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1093番8号 (電話) 047-459-0511				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人川原学園	平成2年3月31日	北村 健一	〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1093番8号 (電話) 047-459-3500				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
農業	動物管理専門課程	動物管理科	平成6年文部科学大臣告示 第84号				
学科の目的	動物分野の就職先は野生、愛玩、産業動物と幅広くそれぞれの分野に実践的に対応する基本的な能力、技術力を多くの動物との実践教育の中から習得することを目的とする						
認定年月日	平成26年 3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
	2年						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
280人	273人	0人	12人	16人	28人		
学期制度	■前期 :4月1日～8月31日 ■後期 :9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実技試験、受講態度、欠席等総合判定を行う			
長期休み	■学年始め:04月01日 ■夏季:07月26日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:03月06日～3月31日		卒業・進級条件	1年前期・後期、2年前期、後期、総ての学期単位を取得する。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者と密の連絡を取る		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 直接該当する国家資格 無			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 動物園 水族館、観光牧場 酪農畜産 等 ■就職指導内容 詳細に個別指導 ■卒業生数 123 人 ■就職希望者数 121 人 ■就職率 99 % ■卒業者に占める就職者の割合 98 % ■その他 ・進学者数: 0人 就職状況 動物園等(浜松市動物園他23施設 36名)・水族館等(鴨川シーワールド他6施設8名)・観光牧場等(マザー牧場他8施設15名)・馬関係(追分ファーム他4施設4名)・酪農畜産等(越川ファーム他13施設16名) その他動物関連33施設35名 動物関連外 4施設7名 (令和 1年度卒業者に関する 令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3				
中途退学の現状	■中途退学者 13名 平成31年4月1日時点において、在学者273名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者260名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の都合 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席者に対して、早い段階から個別指導を行い、欠席を長引かせない指導を行う		■中退率 4.7%				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 賞与型奨学金(学費の満額)無利息 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	URL: http://www.tokyowildlife.ac.jp						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

2年間で4期に分けて企業と連携を計る。それぞれの期で学んだ項目を相互に関連させ、無意識に実行することができる一連の日常管理として身に付けた上でできる限り多くの動物種の飼育管理を経験させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校学則に委員会の設置が規定されており、それを受けて委員会規則を制定しております。そのため、委員会では、企業側や有識者などからのご意見などを取りまとめ、学校長へ様々な提言をしております。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2020年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
大矢 秀 臣	全日本動物輸入業者協議会 事務局長	2019年4月1日～2021年3月31日	①
岡田 尚 憲	公益社団法人日本動物園水族館協会事務局長	2019年4月1日～2021年3月31日	①
片井 信 之	NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク非常勤職員	2019年4月1日～2021年3月31日	③
藤原 克 則	下田海中水族館 飼育課長	2020年4月1日～2022年3月31日	③
館山 幸 志	マザー牧場 総務課長	2019年4月1日～2021年3月31日	③
鶴見 正 雄	みるく農業協同組合東部支所長	2019年4月1日～2021年3月31日	③
川原 一 志	非常勤講師	2019年4月1日～2021年3月31日	
北村 健 一	学 校 長	2019年4月1日～2021年3月31日	
川原 亜 記	事務長	2019年4月1日～2021年3月31日	
米谷 良 一	学生課長	2019年4月1日～2021年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 定期開催

第1回 令和元年 5月15日 14:00～16:00

第2回 令和元年12月11日 13:00～17:00

第1回 令和2年 6月 9日 14:00～16:00

第2回 令和2年12月 9日 13:00～17:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

学生の動物園水族館に関する知識が余りに表面すぎることの対策として、基礎動物研究法の内容を大幅に変更した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

動物関連企業は、愛玩動物系を扱う企業から、公私立動物園、水族館、観光牧場、酪農、畜産と分野が広い。戦力となり得る人材を育成するために、動物種の選択、扱う回数等々、細やかな指導を行う

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1年では、動物管理発展実習に始まり、2年では、応用実習、実践実習を実施し、成果評価は本校の評価規定に基づくものである。また、2年後期の施設研修は、企業の評価による。(施設研修評価表)なお、施設研修時には、研修期間中に必ず本校教職員が訪問し、施設長と研修生に面談し、施設長に評価について依頼している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物管理学発展実習	動物管理学基礎実習を基本として、学んだ技術を多様な動物種に用いることで、日常の管理方法の実践を学ぶ。なお、3週間職業実践実習(動物別)の基礎実習を行う。	川原鳥獣貿易株式会社
動物飼育学応用実習	動物の日常管理を意識して実行することを学ぶ。飼育棟の出入り、観察方法、健康状態の把握、動物舎の管理方法、適切な餌の質と量、脱出防止。	川原鳥獣貿易株式会社
動物飼育学実践実習	本校における学習及び施設研修で体験したことを実践し、卒業後、就職施設においてスムーズに就業できるよう学習する。	川原鳥獣貿易株式会社
施設研修	本校で学んだ知識・技術を社会で体験させ、又就職活動の一助として、発表する場を設ける。	群馬サファリパーク他100施設
社会学概論	各分野の卒業生が講師であり、これら専門家の話を聞くことで、仕事に対する見聞を広めると共に理解を深める。	中春別農業協同組合等10施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学則施行規則では、教職員は最新の知識や知見の習得に努めることとなっている。そこで、規則に基づく教職員研修等実施要項により、全国の動物関係施設での研修(視察)を実施しているが、これにより、企業などとの密接な連携を図り、教職員が最新の実務知識や技術を自己のものにできるようになるものと思われる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 特別案内授業研修 4月～6月(延べ18日間) 学生指導教員他12名、東京動物園協会
内容: 専門家による近隣2動物園、1水族館の見どころや問題点など多岐にわたり解説した。
- 社会学概論研修 4～6月(延べ7日間)、学生指導教員他8名、東京動物園協会他
内容: 企業担当者や本校卒業生による企業の業務内容を具体的かつ詳細に説明。
- 地域施設研修 8月24日 学生指導教員他16名 小樽水族館、札幌市円山動物園
8月25日 学生指導教員他16名 登別マリノパークニクス、ノーザンホースパーク
内容: 企業責任者(園館長)より、レクチャーを受ける。各園の施設の歴史や概要の説明を受ける。民営と公営の厳しさを感じ、今後学生への指導(特に進路指導)に役立った。
- 施設研修先教職員研修 10月17日～11月15日 学生指導教員他9名 多摩動物公園他97施設。
内容: 現場で企業責任者から、企業の実情から、望ましい職員像までの指導を受ける
- 学外見学引率時研修 10月8日 学生指導教員他7名 群馬サファリパーク
10月9日 学生指導教員他7名 日立市かみね動物園、アクアワールド茨城県大洗水族館
10月10日 学生指導教員他4名 よこはま動物園
内容: 各施設とも園長よりレクチャーを受ける。企業概要などを聞き、実際に見学、体感することで学生は具体的に進路や就職に対し、前向きになることができた。
- 教職員研修会
ア、進学指導専門家による研修会(3月26日開催)
内容: 現代高校生や高校教員らから見た、専門学校に対する位置づけについて等の解説であり、幸いなことに、本校は最上級の位置づけを得ているとのことであった。
イ、2019年度授業始業に伴う教職員研修会(4月17日開催)
内容: 全教職員が一堂に会し、この一年間を振り返るとともに、今後の連絡や連携の強化を再確認した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 移り変わる現代の高校生と保護者対応について 7月30日 学生指導教員他15名
内容: 東京私立高校現役教諭から上記の内容を中心に話が合った。今後の学生指導及び保護者対応に役立った。
2. 平成31年度(委嘱)中堅教職員研修会 教育指導力向上講座 8/8～8/9 1名、教員資格講座 8/8～9/8/20～23 1名
平成31年度(委嘱)中堅教職員研修会 8月28日～30日 学生指導教員1名
内容: 現役の中堅教職員の教育力の高めるための研修であった。
3. 「現内閣の職業教育の問題点などについて」 11月27日 学生指導教員1名
4. 動物の適正な飼育管理方法 12月4日 動物取扱責任者研修 1名
内容: 当該教科目の教育力の高めるための研修であった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. 施設研修先教職員研修 10月～11月 学生指導教員他10名 研修先約100施設
内容: 現場で企業責任者から直接指導を受ける
2. 地域施設研修 8月 学生指導教員他15名 北海道の動物園など
内容: 企業責任者(園館長)と面談し説明を受ける
3. 特別案内授業研修 4月～6月(延べ18日間) 学生指導教員他12名、東京動物園協会
内容: 専門家による都内3園の少人数解説
4. 特別講演会「国立動物園を考える会」 講師3名 対象: 全学生及び教職員
内容:
5. 社会学概論研修 6・7月57日間、学生指導教員他8名、東京動物園協会他
内容: 企業実務者による、企業の業務説明
6. 学外見学引率時研修 10月 学生指導教員他8名 群馬茨城県等の企業
内容: 施設長による講義を受講
7. 教職員研修会 7月 全常勤教職員18名
内容: 年間を振り返り、連携強化。

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 教員・教職員研修(学内) 7月 学生指導教員他12名
内容: 現役の他校教職員等による講義などの受講
2. 2019年度外部教職員研修会参加 学生指導教員2名参加
3. 2019年度授業始業に伴う教職員研修会
内容: 全教職員が一堂に会し、この一年間を振り返るとともに、今後の連絡や連携の強化を再確認した。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、更なる学校運営の改善のための評価とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育成果
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令などの遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

一例として、学校関係者評価委員会において、就職先の決定に関し、「絞り込み」が足りないとの指摘を受けたのを受け、動物園や水族館の実態把握を目的にして、少人数でベテラン飼育関係者による「特別案内事業」を開始している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2019年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
山田 厚志	東京女子学園中学高等学校 教諭	2019年4月1日～2021年3月31日	高校教員
本 莊 勤	東京動物専門学校 保護者	2019年4月1日～2020年3月31日	保護者
清 水 達夫	東京動物専門学校 保護者	2019年4月1日～2021年3月31日	保護者
岡 本 元江	東京動物専門学校 卒業生	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生
片 井 信之	NPO 静岡県自然史博物館ネットワーク非常勤職員	2019年4月1日～2021年3月31日	企業等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <http://www.tokyowildlife.ac.jp> 公表時期については、5月末とする

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
正確で、最新の多くの学校関係情報を提供しよう努めているが、その目的は、企業側の本校(学生)に対するより正確な判断材料としていただくものであり、本校にとっても、本校をより理解していただくことで、それが求人など就職につながることを期待している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要
(2) 各学科等の教育	教育活動
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育活動
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	経済支援
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	地域貢献、地域連携

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
UR: <http://www.tokyowildlife.ac.jp> 学校フェイスブック、学校ツイッター

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2019年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
○			動物管理学基礎理論	動物管理実習を行うための基礎管理方法を理論的に学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			基礎動物学総論	今まで身に付けた断片的な知識を整理し直し、生物全体を見ることができるよう、生物学の基礎を系統的に学ぶ。生物を理解するために、目的意識の上で化学の基礎を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			基礎動物解剖学	動物体を理解する為の基礎は、「体の構造」と「機能」を知ることであり、その形態と構造をありのままに記録する方法を学ぶことにより、解剖学的なもの見方と考え方の基礎を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			基礎動物生理学	「体のはたらき(機能)」を学ぶ。動物解剖学と同じく、単に動物体の機能を学ぶのではなく、生理学的なものの考え方を身に付けるのが目的である。	1前	21	○			○			○	
○			基礎動物研究法	問題点を具体化し、計画・調査・まとめ・発表と続く一連の動物研究法の過程を通して、自然現象を正しく認識し、整理することのできる基礎的な考え方を身に付ける。	1前	42	○			○		△	○	△
○			動物に関する法律	世界的規模での野生動物の保護運動、愛玩動物や植物に対する愛護精神の普及に伴い、それらに様々な法的規制が行なわれている。仕事を遂行するための法律の内容を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			動物管理学基礎実習	基礎的な項目を身に付ける。①作業に使う用具の名前と用途、②飼育動物の身になって清掃ができること。③複数の仕事を一定時間で計画的に消化できること。④小型動物の保定ができる。	1前	84				○	○			○
○			基礎動物学実習	動物飼育の導入部である。動物を取り扱うために必要な基礎的な技術やフィールドワークの方法などを学ぶ。	1前	32				○	○			○
○			自己健康管理学	社会に出てから常に自分の体調を最良の状態に整え、コントロールすることの出来る保健的技術を身に付けることと動物の仕事に必要な体力を付けることを学ぶ。	1前	32				○	○		○	
合計					科目		単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	14週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(動物管理専門課程動物管理科) 2019年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
○			学校行事(1)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。入学式・オリエンテーション・健康診断。	1前	42				○	○		○	
○			資料検索法	自分が必要としている資料にたどり着くまでの方法を勉強する。又、日常購読している資料を、有事の際に備えてどのように整理保存しておくかの方法も併せて学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			知識の整理法	統計的手法に用いられている数学的な考え方に重点を置き、その基礎を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			システム化の方法(1)	現在代表的な高級言語のひとつである「C言語」を理解し、プログラムを構築する方法を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			システム化の方法(2)	将来動物管理をすることを目的として、PCの基本的操作を学ぶ。	1前	21	○			○			○	
○			動物関連応用邦語	動物に関する図書を購読することによって、日本語の読解力を養成する。又、動物観察を通して、動物の動作・行動などをありのまま文章に表す訓練をし、日本語の表現力を養う。	1前	42	○			○			○	
○			動物関連基礎英語	非常に基礎的な英語を使って文章を正しく「読み」、「書く」技術を学ぶ。「聞く」、「話す」基礎的な英語の技術を身に付けるのが本科目の目的である。	1前	42	○			○			○	
○			社会学概論	様々な分野の第一線で活躍する人々を招き、専門の話聞くことによって見聞を広め、各人の仕事に対する夢や生きがいについて考える。	1前	21	○			○		○		
合計					科目		単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	14週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
〇			動物飼育学応用理論	動物の日常管理や、非日常管理の方法を理論的に学ぶ。	2前	63	〇			〇			〇	
〇			自然保護論	自然保護と一口に言っても、非常に複雑な問題がからみ合い、大変難しいものである。自然保護を考え、視野の広い見方を学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			動物疾病学概論	「動物が病気であるとは、どのような状態なのか。」「疾病を起こす原因は何か。」「疾病を未然に防ぐにはどうすればよいか。」など、動物の疾病について学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			動物微生物・寄生虫学	微生物とはどのような生物であるかを学ぶ。同定法、薬剤耐性試験の方法、治療法などを学ぶ。よく登場する寄生虫について、分類、生活様式、感染様式、症状、治療法について学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			動物・公衆衛生学	動物から動物へ疾病が感染するのを予防するにはどうすればよいかを学ぶ。人畜共通の疾病を学ぶ。感染性の疾病予防及び発生したときの対応と処置の仕方について学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			鳥類学	鳥類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			両生・ハ虫類学	両生・ハ虫類学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			水族学	魚類、水生生物学の①分類、種類、分布と生態②種に特有な解剖学的な特徴③種に特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			特殊動物学	分類学的には独立し、その形態や生態が特有で種数が少ない動物の①分類、種類、分布と生態②特有な解剖学的な特徴③特有な生理学的な特徴④飼育管理⑤日常の観察⑥繁殖等を学ぶ。	2前	21	〇			〇			〇	
合計			科目			単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	14週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
〇			仕事論(2)	仕事論(1)で学んだことを総括し、就職に対する考え方、準備、試験の受け方、及び反省という具合に就職に関する技術を時系列に沿って学習することを目的とする。	2前	21	〇			〇			〇	
〇			動物飼育学応用実習	動物の日常管理を意識して実行することを学ぶ①飼育棟への入り方②動物体の観察方法③排泄物による健康状態の把握④動物舎の管理方法⑤適切な餌と糞と量⑤脱出防止。	2前	252				〇	〇		〇	〇
〇			学校行事(3)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。入学式・健康診断・避難訓練・歓迎会。	2前	42				〇	〇		〇	
合計			科目			単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前期
		1学期の授業期間	14週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

授業科目等の概要

(○専門課程○学科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法		場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外		専任
○			動物飼育学実践理論	実践実習に伴う作業を理論的に学び、飼育業務の一連の事務作業や飼育管理のための管理業務を理論建て学ぶ。	2後	105	○		○			○		
○			動物飼育学実践実習	本校における学習及び施設研修で体験したことを実践し、卒業後、就職施設においてスムーズに就業できるよう学習する。	2後	420			○	○			○	○
○			施設研修	本校で学んだ知識・技術を社会で体験させ、又就職活動の一助として、発表する場を設ける。	2後	182			○	○			○	○
○			学校行事(4)	実社会では、個人的な技術はもとより、協調性をもって集団生活を送ることが大切である。従って、重要なひとつの教科目と位置付けている。学校祭・卒業式・避難訓練。	2後	84			○	○		○		
合計														
						科目	単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	後期
		1学期の授業期間	15週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。